

臨床基本実習

科目責任者 豊田 茂
学年・学期 4学年・後期

I. 前 文

系統講義で得られた知識は患者さんを目の前にした時にすぐに役立つとは限りません。CC (Clinical clerkship) では知識も重要ですが、患者さんの診察に際しての具体的な技能、および態度も身につけている必要があります。これからはCCへ出る前に必要な知識、技能、態度は全国共通のCBT (computer based testing)、およびOSCE (objective structured clinical examination) を用いて評価されることになります。この科目ではCCを行う上での必要な態度、技能について実習を含めて行います。実習は全体を8グループに分けて行い、共用試験OSCEに対応して医療面接、心音、肺音、救急蘇生、外科手技なども含まれます。実習前に自己学習を行い、実習の実があがることを期待します。

II. 担当教員

各臨床講座

III. 一般学習目標

CCに必要な知識および診療基本技能、態度を身につける。

IV. 学修の到達目標

1. 患者・医師（学生）間の良好な関係を構築できる。
2. POMRに準じた診療録の作成、記録を行うことができる。
3. 診察基本技能を実際に行うことができる。
4. レントゲンを中心とした基本的画像の読影を行うことができる。
5. 心電図をとり、その判読ができる。

V. 授業計画及び方法

後日配布するサブノート参照

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

OSCE試験結果（本試験・再試験）を成績とする。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教科書：臨床基本実習サブノート（講義時配布）

参考書：診療参加型臨床実習に必要なとされる技能と態度についての学修・評価項目（第1.1版）
（共用試験実施評価機構）

VIII. 質問への対応方法

原則として、講義時に質問を受け付ける。

後で質問がある場合は、原則として秘書を通じてアポイントを取ること。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	
医師としてのプロフェッショナリズム 幅広い教養、利他の精神、医師に求められる品格を身につけ、豊かな人間性を育み、他の医療者と協調して、多様な価値観を尊重する全人的な医療を実践できる	◎
能動的学修能力 医学知識・技能を主体的に学び、情報・科学技術を活用して、生涯にわたって自ら問題を発見し、解決することができる	◎
地域医療の理解 地域社会における医療の役割と、その中核を担う意味を理解できる	
国際性 国際社会における医学・医療の動向や課題を理解し、課題解決に向けて行動することができる	
リサーチマインド 研究活動における積極的な創造・発信に挑み、医学・医療の進歩に貢献することができる	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

各講義の終了後に個々の質問を受け付け、その場でフィードバックする。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：

「臨床基本実習サブノート」および「診療参加型臨床実習に必要とされる技能と態度についての学修・評価項目（第1.1版）冊子」及び学修用動画をもとに、事前に手技の内容と手順を確認すること。（所要時間の目安：60分）

事後学習

各自同じグループまたはペアを組んだ学生と手技について振り返りを行い、自身の手技についての不備など客観的に把握し、手技の改善及び向上に努めること。（所要時間の目安：30分）

XII. コアカリ記号・番号

CS-01-01-01～03

CS-01-02-01～06

CS-03-01-01～05

CS-05-04-01～03

CS-05-05-01